

ばあちゃんとはちようき

天木 莉子

「ただいま」

学校から家に帰ってきた時、私はいつも元気な声で「ただいま」と言う。そしたら、ばあちゃんからはいつも「おかえり」という言葉が返ってくる。そしてげんかんの方をのぞいて「ニコ」と優しい笑顔も返してくれる。私はそんなばあちゃんがはちきれるぐらい大好きだ。

そしてしばらくたったある日いつも通り学校から帰ってきた、私は「ただいま」と元気な声で言った。でもばあちゃんの声は返ってこない。ばあちゃんのくつがあるのを確認して、もう一度元気でさらに大きな声で「ばあちゃんただいま」と言った。でもばあちゃんの優しい笑顔と、「おかえり」の声は返ってこなかった。私は心の中でとても心配し、悲しくなってきた。ばあちゃん耳がきこえにくくなってるのかな。八十一才。きれいで美人でやさしく、ときにはきびしいばあちゃん。いつまでも若いと思っていたのに。急に悲しくなった。前までのばあちゃんにもどれないのかな。さみしくなって部屋にこもり少し泣いた。だけど心の中で少しこんな気持ちがあわてきた。泣いている場合じゃない。前の優しい笑顔あふれるばあちゃんをとりもどすんだ。ばあちゃんの耳を直すためにはどうしよう。少し考えて、はちようきを買ってあげるという案が思いついた。

それから、私のおじさんとほちようきプレゼント計画がはじまった。まずはばあちゃんに合うほちようきを探すために、おためしでいろいろなほちようきをつけてもらった。最後にはあちゃんに良かったほちようきを聞いたのでそれをおじさんといっしょにプレゼントした。ばあちゃんに「よく聞こえる？」と私が聞いたら、「とてもよく聞こえる」と笑顔で返してくれた。プレゼントした時ばあちゃんは私の頭をトントンと少し優しくめになでてくれた。とてもあったかかった。ばあちゃんの前までの笑顔みたいに。私はばあちゃんにほちようきをプレゼントして、心が爆発したかのようにとてもとうれしかった。そして、前の日常をとりもどすために、私も学校から帰ってきたら、笑顔と大きな声で「ただいま」と言っている。そうしたらばあちゃんもとびきりの優しい笑顔で「おかえり」と返してくれる。

それが笑顔と笑顔のバトンタッチ。私は小学生の間で笑顔と笑顔のバトンタッチをするのはあと残り六カ月ぐらいしかない。毎日、毎日が幸せだと思つて、どの家よりも笑顔で元気良く「ただいま」を言つて、てれくさいけど、ばあちゃんの事が大好きというのを伝えたい。私は天木家に生まれて本当に良かった。私ははちきれるぐらいばあちゃんが大好きだ。